

プラン名 既習を生かして問題を解き対話!!! (原勤問題 50%)

1 授業づくり

12か条+(プラス)
2条 6条

(1) 現状・課題 (R)

課題	現状 (科学的データ)		
・題意を把握できるようになってきたが、見通しの段階でどの既習事項を用いれば解けるかの自己決定ができない。そのため、適用問題で自力解決に困難さが見られる。	令和2年度 中期学力向上プラン		
	活用力問題	1年 % 2年 % 3年 % 4年 % 5年 % 6年 % ※題意を把握して解ける子が増えた。	平均正答率 %
	適用問題	45分間で理解できていない児童の多くは、授業中の発言が少なかったり、自力解決に困難さが見られたりする。	正答率 %
	塾則5タイム	学習リーダーを中心に発言を繋ぐ姿が見られた。	児童1人1回発言 %
	令和2年度 県評価問題 (算数科) ※12月実施		
	県 (5年)	1(2) 学校から公園までの距離をもとにして図書館までの距離を求める問題 5(2) グラフの説明に該当する選択肢を選ぶ問題	% %
【要因】 ○題意を把握し、問題場面を数理的に捉えることができてきている。 ▲考えを伝え合う姿が増え、理解が向上しているが二極化傾向にある。 ▲見通しの理解が曖昧のため、適用問題で自力解決が難しい。			

(2) 計画と実行 (P・D)

後期目標	具体的取組																
①見通し (評価規準 思・判・表の時) 必要な情報は何か、どの既習がなぜ使えるのかの見通しを持って自力解決のステップを踏むことができる。	まりこさんは、小麦粉 150g、バター75g、砂糖 90gを入れてパンを作りました。おいしくできたので、同じ味のパンを今度はもっとたくさん作ろうと思って、小麦粉を 500g用意しました。砂糖は何g必要ですか。 ①見通しを持つ。(どの既習が「なぜ使えるのか」まで問う) (課題把握は6分間以内) ※課題把握=【問題確認】+【課題確認】 どの考えを使うの? 比の考え方が使えるね! どうして、比の考え方が使えると言えるのかな? 2つの数量を比べる時には、比の考え方が便利だったよね。 なるほど、そう考えるのか。2つの数量を比べるなら、比例の考え方も…。 ②式の意味や式から図、図から式へと思考を繋げる。 90:150=X:500の式になりました。 小麦粉を500g使う時、砂糖との関係を線分図で表せられますか? わかっているつもりでも式が何を表しているのか、式と図は繋がっているのかを問い返していこう。また、児童の説明の途中で止めて数の意味を確認したり、図を用いた説明を促したりして理解を深めよう。																
	②問い返し 問題場面を数理的に捉え式にしたり、式の意味や図から式、式から図を説明したりすることができる。																
評価項目																	
・ 参観シート (研究授業) ・ 原勤問題取組 ・ 児童アンケート	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価 (結果)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①見通しの有無 (課題把握と合わせて10分間以内)</td> <td>(○・×)</td> </tr> <tr> <td>②問い返し発問ができたか。</td> <td>(○・×)</td> </tr> <tr> <td>③塾則5タイム 児童1人1回以上発言 (該当する反応の言葉含む)</td> <td>(○・×)</td> </tr> <tr> <td>④適用問題正答率 (75%以上)</td> <td>(%)</td> </tr> <tr> <td>自力解決正答率 50% (単元末原勤問題取組2単元以上)</td> <td>(%)</td> </tr> <tr> <td>I 「自分の考えを伝えている」肯定回答 90% (2月)</td> <td>(%)</td> </tr> <tr> <td>II 「学びを生活に生かしている」肯定回答 90% (2月)</td> <td>(%)</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価 (結果)	①見通しの有無 (課題把握と合わせて10分間以内)	(○・×)	②問い返し発問ができたか。	(○・×)	③塾則5タイム 児童1人1回以上発言 (該当する反応の言葉含む)	(○・×)	④適用問題正答率 (75%以上)	(%)	自力解決正答率 50% (単元末原勤問題取組2単元以上)	(%)	I 「自分の考えを伝えている」肯定回答 90% (2月)	(%)	II 「学びを生活に生かしている」肯定回答 90% (2月)	(%)
評価項目	評価 (結果)																
①見通しの有無 (課題把握と合わせて10分間以内)	(○・×)																
②問い返し発問ができたか。	(○・×)																
③塾則5タイム 児童1人1回以上発言 (該当する反応の言葉含む)	(○・×)																
④適用問題正答率 (75%以上)	(%)																
自力解決正答率 50% (単元末原勤問題取組2単元以上)	(%)																
I 「自分の考えを伝えている」肯定回答 90% (2月)	(%)																
II 「学びを生活に生かしている」肯定回答 90% (2月)	(%)																

(3) 検証と改善策 (C・A)

月	評価項目 (誰が、いつ)	結果	改善策
1	□原勤問題取組【検証 第4週】	低 % 高 %	
2	□参観シート①②③④【4年研究授業】 □児童アンケート【検証 第4週】	① ② (%) ③ % ④ % I % II %	
3	□原勤問題取組【検証 第2週までに】	低 % 高 %	

2 基盤づくり

後期目標	具体的取組	評価
わからないことを話し合って理解に繋げることができる。 児童1人1回発言 (該当する反応の言葉含む)	・ 児童同士の対話の土台を構築する。 塾則5タイムを設けよう!子どもたちに話す視点(明確な意図)を与え、学習リーダーを中心に児童同士の対話で解決させていこう!内容をより深めたり、視点がずれたりしないように教師がファシリテートしよう。 (会話のイメージ: ぼくは、こうしました。ここまでどうですか。 まってください。○○がわかりません。 ああー! ○○さんは、どうですか? わかりました! なんでもうなるんですか? もういちど教えてください。 たすけます。 ここまで、できたんですけど...このあとがわかりません。)	2月 ○・▲